



		ラダーⅠ	ラダーⅡ	ラダーⅢ	ラダーⅣ	ラダーⅤ
経験年数 目安	10～					
	9					
	8					
	7					
	6					
	5					
	4					
	3					
	2					
	1					
チーム医療		看護の役割・責任 病院組織、多職種との協働の中にある看護職の役割・責任 他職種の役割・責任、立場、考え方の理解 他職種との積極的なコミュニケーション		それぞれの職種の専門性に応じた役割分担の促進・調整力 適切なリーダーシップとフォローシップの発揮		
社会組織人	個人の業務(タスク)管理			部署の業務(タスク・フロー)管理		医療・介護医療チームの業務フロー管理
	社会人としての基礎(挨拶・報告・相談)		意図的に訊く力	発言する責任・発言力	意見の交換	自律・意見の集約・調整・交渉力
	疑問・問題提起			問題の把握、解決のプロセス	問題の的確な把握、プロセスの評価	結果・成果への責任
JCHOの ミッションに 基づく 統合的な 目標		・指導の下で安全な看護ができる。 ・組織の一員であることを自覚し、施設を利用する全ての人、協働する全ての仲間に丁寧な対応ができる。	・地域における自施設の機能を理解できる。 ・地域医療および地域包括ケアのチームの一員として看護職に求められる役割を考え行動につなげることができる。	・地域医療および地域包括ケアのチームの一員として、患者および家族、地域の人々の生活上のニーズに応えるために積極的に問題解決に参画できる。	・患者および家族の地域における生活上のニーズを把握し、医療者のニーズと統合したケアを提供するためにリーダーシップが発揮できる。	・地域関連施設と連携を図り、ケアを継続できる。 ・患者および家族の地域における生活上のニーズを把握し、医療者のニーズと統合したケアを提供する実践モデルとして行動できる。
定義	看護師	看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する。	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する。	患者および家族に合った個性のある看護を自立して実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、患者および家族にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する。
	保健師	①指導のもと、健康問題を抱える担当患者やその家族の保健指導ができる。	①指導のもと、地域診断を行い健康管理に関する地域の特徴を捉えることができる。 ②健康問題を抱える個人や家族の日常的な保健指導ができる。	①健康問題の有無に関わらず対象となる個人への健康活動への働きかけができる。 ②指導の下、地域に向けたイベントで健康活動を促すことができる。 ③健康事業における他職種の役割を	①健康の有無に関わらず、対象となる集団の特性をふまえた健康活動への働きかけが、多職種と協働して行える。 ②地域連携機関への調整ができ退院支援活動のリーダーシップを担う。	①対象者の生活を前提とした多角的な分析か地域診断力を発揮し、チームの実践に関してリーダーシップを行う。 ②地域関連施設、地域の保健師と適切な連携体制を構築できる。
	助産師	①看護の流れを理解しチームの一員としての自覚と行動がとれる。指示・手順に従い安全確実に助産ができる。	①指導のもと健康生活支援の援助のための知識・技術・態度を身につけ安全確実に助産ケアができる。 ②助産外来、院内助産居ついてその業務内容を理解できる。 ③ハイリスク事例についての病態と対処が理解できる。	①新人助産師へ妊娠・分娩・産褥・新生児の指導ができる。 ②助産外来ができる。 ③院内助産が指導の下できる。 ④受け持ち事例の検討ができる。	①正常ハイリスク妊産褥婦と家族のケアにおいてモデルとなる実践をする。 ②助産外来、院内助産、訪問などにおいて生活環境や個性を考慮したケアを行う ③女性のライフサイクルにかかる地域の支援活動に参画する。	①女性とその家族のライフサイクルと生活に沿った、創造性のある助産・健康生活へのケアを提供する。 ②地域の要請に応じた女性のライフサイクルに関連する教育的活動のモデルとなる。 ③他職種との協働など、多彩なアプローチで地域でのケアを継続する。
知識の体系化			○論理的思考			
			○研究的視点 (仮説思考)		(戦略思考・定量分析)	
人間関係の構築		○多職種連携・チーム医療の視点		○地域包括ケアの視点		
重点を置く教育項目			○プレゼンテーション			
					○教育・実習指導	
専門的スキルの習得		○アセスメントに役立つ疾病学(糖尿病・認知症等)				
		○医療安全・感染管理				
			○退院支援		退院調整	
倫理的実践能力	看護提供に際して守られるべき価値・義務(1～6条)	①看護活動は法規制ガイドライン等の下で実施されていることが理解できる。 ②看護専門職としての自覚と責任ある行動をとることができる。 ③倫理的問題に気づき相談できる。	①倫理綱領を理解し、患者・家族の思いを尊重した行動をとることができる。 ②規律を守り、自律した行動をとることができる。	①患者・家族の価値観を理解し、倫理的問題を明確にし検討できる。	①医療チームの一員として患者・家族の倫理的問題を把握し、倫理調整に向け意見することができる。	①医療チームの一員として患者・家族の倫理的問題を把握し、倫理調整に向けメンバーに指導的に関わることができる。
	責任を果たすために求められる努力(7～11条)	①新人看護職員卒後臨床研修をプログラムに沿って一年間で修了できる。 ②ケーススタディで自己の体験した看護をまとめることができる。	①ワークライフバランスを含めた自己のキャリアについて考えることができる。 ②日々の看護実践に疑問点を見出し、倫理的視点で事例検討ができる。 ③自己の看護実践をリフレクションしケースレポートとしてまとめることができる。	①専門職として実践能力向上のための研修に自主的に参加できる。 ②部署・チーム・委員会等で行われる看護研究に参加することができる。 ③自己のキャリアプランについて述べるができる。	①専門職として実践能力向上のための学習に積極的に取り組み、自身の提供する看護実践の課題を見つけることができる。 ②問題解決能力向上のために学習したことを日々の看護実践に活かすことができる。 ③積極的かつ継続的に院内外研修に参加することができる。 ④自己の看護実践から研究テーマを発見し看護研究に取り組むことができる。	①専門職として身に付けた実践能力をもとに、自己の学習課題をレベルアップさせ、下位者のモデルとなる学習姿勢を見せる。 ②役割における専門的知識、技術の向上のための学習を継続して行っている。 ③主体的に、院内外の研修の企画・立案・参加・評価ができる。 ④常に科学的視点を持って臨床に臨み、自己の研究テーマをもとに研究を行うことができる。
	個人特性と組織的取り組み(12～15条)	①社会人・組織人としてのルールを身につけ、組織の一員として行動できる。 ②身だしなみ、言葉遣いに留意した行動ができる。	①組織の一員として役割を理解し、部署の目標達成に向けて自主的に参加できる。 ②身だしなみ、言葉遣いに留意した行動ができお互いに指摘し合える。	①社会の動向・医療情報に関心を持つことができる。 ②身だしなみ、言葉遣いに留意した行動ができチームメンバーに指導できる。	①社会の動向・医療情報に関して知る努力をしている。	①社会の動向・医療情報に関して得た情報を臨床に役立てることができる。

		ラダーⅠ	ラダーⅡ	ラダーⅢ	ラダーⅣ	ラダーⅤ
【クリニカルラダー】						
看護実践能力	目標	助言を得て 患者のニーズをとらえる	患者・家族の生活状況(場)の ニーズを自らとらえる	患者及び家族の状況(場)の 特性をふまえたニーズをとらえる	患者および家族や生活状況 (場)を統合しニーズをとらえる	患者および家族や状況(場)の 関連や意味をふまえニーズを とらえる
		①助言を受けながら患者および 家族に必要な身体的、精神的、 社会的、スピリチュアルな側面か ら必要な情報収集ができる ②患者および家族の生活状況か ら緊急度をとらえることができる。	①自立して患者及び家族に必要な 身体的、精神的、社会的、スピリ チュアルな側面から必要な情報収 集ができる ②得られた情報をもとに、患者及 び家族の全体像から課題をとらえ	①患者及び家族に必要な身体的、 精神的、社会的、スピリチュアルな 側面から個性を踏まえ必要な情 報収集ができる ②得られた情報から優先度の高い ニーズをとらえることができる	①幅広い視野と予測的な判断のも と身体的、精神的、社会的、スピリ チュアルな側面から患者および家 族を支える多職種や専門職から必 要な情報収集ができる ②意図的に収集した情報を統合し、 ニーズをとらえることができる	①患者および家族を支える多職種 や専門職から多様な状況やニー ズの情報収集ができる ②患者および家族を地域で支える 多職種の価値観に応じた判断が できる
	目標	助言を得ながら、安全な看護を 実践する	患者及び家族の状況(場)に 応じた看護を実践する	患者及び家族の状況(場)の 特性を判断し看護を実践する	専門的知識を活用し必要な技術 を選択・応用し看護実践できる	最新の情報や専門的な知識と 社会情勢を踏まえた創造的な看 護を実践する
		①指導を受けながら看護手順に 沿ったケアを実施し評価できる ②指導を受けながら、患者および 家族の基本的な援助ができる ③看護手順やガイドラインに沿っ て、基本的看護技術を用いて看 護援助ができる	①患者及び家族の個性性を考慮 しつつ標準的な看護計画に基づ きケアを実践し評価できる ②患者及び家族に対してケアを 実践する際に必要な情報を得る ことができる ③患者及び家族に状況に応じ、 適したケアを選択し援助ができる	①患者及び家族の個性性に合わ せて、適切なケアを判断し実践、 評価できる ②患者及び家族の顕在的・潜在 的ニーズを察知しケアの方法に工 夫ができる ③患者及び家族の個性性から予 測される課題や問題をとらえ、看 護実践に反映ができる	①患者および家族の多様なニーズ に応えるため、専門分野の知識・技 術のなかから最適な看護を実践し 評価できる ②患者および家族に今後起こりう る課題や問題に対して予測的およ び予防的に看護実践できる	①患者および家族の複雑なニーズ に対応するために最新の知見や専 門的な知識を取り入れたケアの実 践・評価ができる ②複雑な問題をアセスメントし、最 適な看護を選択できる ③実践したケアをあらゆる知見に 基づき評価し、追求できる
	目標	患者および家族を取り巻く 関係者と情報共有ができる	看護の展開に必要な関係者を 特定し、情報交換ができる	患者及び家族やその関係者、 多職種の役割を把握し連携が できる	患者及び家族を取り巻く多職種の 情報と活動を把握し連携できる	患者および家族の複雑なニーズに 対応するため、多職種の情報を 統合し協働できる。
		①助言を受けながら患者および 家族を看護していくために必要な 情報が何かを考え、その情報を チームメンバーと共有することが できる ②助言を受けながらチームの一 員としての役割を理解できる ③助言を受けながら所属部署の 関係者の多様な価値観を理解し たうえで、ケアに必要と判断した 情報収集することができる ④連絡・報告・相談ができる	①患者および家族を取り巻く関 係者の立場や役割の違いを理解 したうえで、それぞれと積極的に 情報交換ができる ②関係者と密にコミュニケーション を取ることができる ③看護の展開に必要な多職種を 特定できる ④看護の方向性や多職種の状 況を把握し、情報交換できる	①患者及び家族の個別的なニー ズに対応するために、その関係 者の役割を把握し協力し合いな がら多職種連携を進めていくこ とができる ②患者及び家族とケアについて 意見交換できる ③積極的に多職種に働きかけ、 協力を求めることができる	①患者及び家族がおかれている状 況(場)を広くとらえ、結果を予測し ながら多職種連携の必要性を判断 し協力し合うことができる ②カンファレンスにおいて多職種間 の連携が促進されるようファシリ テートすることができる ③患者に起こりうる課題を予測し、 専門・認定看護師、多職種に提案 し調整することができる	①見えにくくなっている、患者およ び家族のニーズに適切に対応す るため、必要な情報を自律的な判 断のもと多職種から情報を得る ②多職種連携が十分に機能する よう、情報を統合しその調整的役 割を担うことができる ③病院外の多職種との調整を図 り連携ができる ④患者の目標を達成するために、 自施設の機能を補完する資源に 気づき、活用することができる
	目標	患者および家族や、 それに関わる人々の意向を知る	患者および家族や、それに関わ る人々の意向を看護に活かすこ とができる	患者及び家族や関わる人々の 意思決定に必要な情報提供や 場の設定ができる	患者及び家族や関わる人々の 意思決定に伴う不安やとまどいを 共有でき、選択を尊重できる	患者および家族の複雑な意志決定 プロセスにおいて、多職種も含めた 調整的役割を担うことができる
		①助言を受けながら患者およ び家族や、それに関わる人々 の思いや考え、希望を知ること ができる	①患者および家族や、それ に関わる人々の思いや考え、 希望を意図的に確認すること ができる ②確認した思いや考え、希望 をケアに関連づけることがで きる	①患者および家族や関わる 人々の意思決定に必要な情 報を提供できる ②患者及び家族や関わる 人々のケアの受け手や周囲 の人々の意向の違いが理解 できる ③患者及び家族の関わる 人々の意向の違いを多職種 に代弁できる	①患者及び家族や関わる 人々の意思決定プロセスに 看護職の立場で参加し、適切 な意思決定支援が実践でき る	①適切な資源を積極的に活 用し、患者および家族や、そ れに関わる人々の意志決定 プロセスを支援できる ②法的および文化的配慮な ど多方面から患者および家 族やそれに関わる人々を擁 護した意思決定プロセスを支 援できる
組織的役割遂行能力	目標管理		①組織の一員として、看護部の 理念・方針、所属部署の目標を 知っている。	①組織の一員としての自身の 役割を理解し、所属部署運営 目標の達成に向けて主体的に 取り組むことができる。	①所属部署運営目標に基づいて、 チームメンバーに指導でき、チ ームの活動計画を遂行できる。 ②部署の係や委員会活動等で、 部署の問題・課題を明確にす ることができる。	①所属部署運営目標に基づいて リーダーシップを発揮しチーム間 で協力のもと部署の活動計画を 遂行できる。 ②委員会・院内チーム活動に課 題を持って参加し、建設的な意 見を述べるることができる。
	安全管理	総合	①医療・看護についての安全 を理解できる。 ②指導の下必要性を判断し、 報告・連絡・相談ができる。 ③指導の下インシデント・アク シデント内容の把握・再発防 止行動がとれる	①医療安全マニュアルに基づき、 安全に留意した行動がとれる。 ②業務上必要なことを上位者へ 報告・連絡・相談ができる。 ③インシデント・アクシデント 発生時の対応及び報告が適切に 行える。	①予見に基づいた事故防止行動 がとれメンバーに指導できる。 ②業務上必要なことを上位者へ 報告・連絡・相談および提言が できる。 ③インシデント・アクシデント 内容の把握・分析と再発防止行 動がとれる。	①適時、業務上必要なことを事 実に基づいて適切な相手に、報 告・連絡・相談できる。 ①安全かつ快適な療養環境の整 備・提供について考え、上司に 提言できる。 ②医療安全対策マニュアルに沿 って事故発生時に初期対応がで きる。
		情報	①情報管理体制について理解 し、基準手順を遵守した行動 ができる。(記録・PC・パス ワード・守秘義務・SNS等)	①情報管理体制について理解し、 基準手順を遵守した行動がで きる。(記録・PC・パスワード・ 守秘義務・SNS等)	①情報管理体制を理解し、状況 を判断した行動がとれる。	①部署内の情報管理について問 題を提起できる。 ①部署内の情報管理に関する問 題解決に向けた対策を立案し実 施できる。
		感染	①マニュアルに基づき、感染 防止対策の実施ができる。	①マニュアルに基づき患者に応 じた感染防止対策が実施できる。	①感染防止対策の実施及びメン バーへの指導ができる。	①部署の感染発生件数の把握・ 分析および改善策の実施とスタ ッフ指導ができる。
		防災	①緊急コール(火災時・ホワイ トコード)を理解し、必要時 にコールができる。 ②災害発生時の患者・職員の 安全確保・緊急連絡方法を 知っている。(消火設備・避難 経路)	①災害発生時の初期行動がとれる。 ②日々の防災チェックができる。 ③防災訓練に参加できる。	①災害訓練に参加し、部署の特 殊性を考え役割を遂行できる。 ①災害発生時の患者・職員の安全 確保と応援体制についてリーダ ーシップを発揮できる。 ②災害に備えた部署内の問題につ いて提起できる。	①防災マニュアルに基づいた役 割遂行とスタッフ指導ができる。

		ラダーⅠ	ラダーⅡ	ラダーⅢ	ラダーⅣ	ラダーⅤ
	経済	① 指導のもと、処置入力・物品の取り扱いができる。	①重症度、医療・看護必要度評価が正しく行える。 ②多重課題時、優先順位を考え実践することができる。	①係・委員会活動を通して、自部署のデータを把握できる。 ②重症度、医療・看護必要度評価が正しく行え、チームメンバーへ指導ができる。 ③自らタイムマネジメントができ、業務改善に向けて建設的に提言できる。	①自部署に関連した、診療報酬について理解している。 ②メンバーのタイムマネジメントを支援することができる。	①診療報酬のしくみを理解し、メンバーに説明ができる。 ②所属部署のタイムマネジメントを推進できる。
	ストレスマネジメント	①定期的に健康診断を受診し自身の体調管理ができる。 ②心身ともに健康な状態で仕事に臨める。 ③メンタルヘルスに関する相談窓口を知っている。	①ストレスを自覚して自身で対処行動がとれる。	①職員の労務安全に関する問題に気づき、職場環境を整えるための建設的な意見がいえる。	①職員の労務安全が確保できるような職場環境を整えるための取り組みができる。	①職場環境が安全であるか常に配慮し、対処方法をメンバーに説明できる。
	多職種連携	①指導のもと、院内の多職種との協働について理解できる。	①日々の業務において多職種の役割を理解し、協働することができる。	①多職種・他部門との連携についてメンバーに指導することができる。	①所属チームと他チーム及び関係職種の業務を把握・調整することができる。	①医師およびコメディカルとの業務調整ができる。
教育内容	集合研修	①看護部オリエンテーション ②夜勤オリエンテーション ③BLS研修 ④感染対策研修 ⑤フィジカルアセスメント研修 ⑥看護過程と記録研修 ⑦看護技術研修 ⑧サービス向上研修 ⑨エンゼルケア研修 ⑩多重課題研修 ⑪静脈留置針研修 ⑫ケーススタディ・まとめ ローテーション研修	2年目 ①倫理研修 ②多重課題研修 ③救急研修 3年目 ①リフレクション研修 ②プリセプター研修	①プリセプターフォローアップ研修 ②説明力向上研修	①リーダーシップ研修	①実習指導者研修
	APN主催研修	社会のニーズに応じた研修会の企画 皮膚・排泄ケア 緩和ケア がん看護 がん性疼痛看護 がん化学療法 感染管理 集中ケア 摂食・嚥下障害看護 救急看護 糖尿病看護 認知症看護 脳卒中リハビリテーション看護				
	部署別研修	・基礎技術の習得	・日常ケアにある倫理について教育 ・リフレクションの支援 ・メンバーシップ教育	・プリセプターシップ教育	・リーダーシップ教育	・臨地実習指導者教育 ・チーム運営教育
		看護研究				
		各部署の年間計画に準ずる（倫理・感染・医療安全・防災・接遇・救急・看護技術・専門分野）				
	共通	医療安全 感染対策 防災訓練 重症度、医療・必要度				
	院外研修	①関西臨床倫理研究会「臨床倫理入門コース」 ②看護協会主催研修	看護協会主催研修、JCHO本部・地区主催研修、関西臨床倫理研究会等			
自己研鑽の過程・統合化（キャリア開発への道のり）		自己の学習課題を指導によって発見する。 必要な知識・技術を主体的に学習する。	日々の実践から生じる疑問点など、自己の学習ニーズを明確にし、知識・技術の習得にむけた学習活動を展開する。	実践の多面的な分析・評価（研究的な視点）を行い、自己の実践の振り返りをする。 組織の中での自己の立ち位置を確認し、中長期的な自己のキャリアを描き始める。	組織ニーズを意識しながら、自己のキャリア形成像が描ける。 専門領域や高度な看護技術等の習得に主体的に取り組める。	地域社会の課題等を踏まえて自己のキャリア形成を思考する。 専門領域や高度な看護技術等についての自己の学習活動を推進する。